

第6回 恵那南地区中学校あり方検討委員会 会議録

・日時 平成26年12月3日（水） 19：30～

・会場 岩村振興事務所 大会議室

・出席者 委員長 鈴木峰夫 副委員長 中根貞好

小中学校代表 足立篤美、丸山優

地域協議会代表 勝川哲男、大庭勝徳、阿部道長

自治連合会代表 西尾公男、西尾忠昭、山内忠良

中学校PTA代表 榎本錦也、成瀬和男、成瀬功一、大島成通、田之上和代

小学校PTA代表 吉村政則、大内鉄平、齋藤賢志、堀靖広

保育園保護者会代表 山本純、小木曾守、丹羽英樹、中垣野歩

事務局 勝川甲子、水野教正、市川新祐、西尾克子、梅村浩三、市川篤励

教育委員会 大畠雅幸、小林規男、伊藤勝彦

振興事務所長 西尾茂文、小木曾正英、門野幸次朗、三宅勝彦、熊谷浩

・欠席者 地域協議会代表 三宅勝継、自治連合会代表 大嶋和司、

小学校PTA代表 山本浩嗣、保育園保護者会代表 澤野繁紀、大島孝介

・委員会内容

1. 開会挨拶 鈴木委員長

大畠教育長

2. 地域説明会の状況について

事務局：資料に基づき説明

委員長：今、事務局からの説明について、ご質問はないか。

委員：あり方検討委員会だよりの参加者人数と提言書骨子（案）の3ページの地区説明会の様子の人数が違うのはなぜか。

事務局：提言書骨子（案）の資料では人数が少なくなっているが、純粹に地域説明会で参加された方であり、たよりは主催者も含めた人数になっていたので、提言書には統一した人数を入れるように修正しますのでよろしくお願いします。

3. 提言書の骨子（案）について

事務局：資料に基づき説明

委員長：今の説明について、ご質問はありませんか。

委員：総意について確認をします。委員の思いが同じになって総意となるが、それが期限内にそこまでに至らなかった場合は延ばすのかどうか。どこかで妥協するのか。

委員長：多数の意見が同じ意見になってきても、そのことについては、同意出来ないという人もいると思う。その場合、提言書には付帯意見として載せてはどうかと思う。

委員：そういう扱いをしていただければ、皆さん気楽に話しが出来ると思います。以前、全会一致と言われたので、そういう風だと皆さん遠慮してしまいますので、今、委員長の言われた扱いにしていただければいいと思う。

委員長：皆さん、どうでしょうか。最後の最後まで納得できないという人が見えれば、付帯意見として提言書に載せてはどうか。

委員：（同意）

事務局：引き続き、資料に基づき説明

委員長：事務局から説明のあったような提言書にしたいと思うので、委員は承知していただき、各地域でのワーキングをお願いします。

4. 提言書の内容について（各地域でのワーキング）

事務局：今回のワーキングでは、①望ましい教育環境とは何か。②今後の課題について、今までに何回か意見が出ているが、第4回、第5回と行って課題が変わってきた。今、思う課題は何か。③この課題についての解決方法は何かを検討をしてほしい。

（各地域でのワーキング）

委員長：議論の最中だとは思うが、山岡から発表をお願いします。

委員：①1校に統合すれば専任の教員がつくということで教育環境は良くなる。大勢の中で揉まれたほうが今後、社会に出たときのためになると思う。
②通学時間が長くなるため道路整備、通学方法も課題となる。
③1校の場合は恵南地域の中心がいい。通学には明知鉄道も利用する方法。サマータイムも取り入れてカリキュラムをつくるのはどうかという意見があった。

委員長：次に串原お願いします。

オブザーバー：①答えがまとまらなかった。子どもたちが生き生きとして暮らしているところや地元に誇りを持っていることが望ましい教育環境だということ。保育園の保護者には、もし串原に中学校がなくなったら若い夫婦は出ていってしまうという話もある。子どもたちにとって一番いい環境をつくってあげたいという気持ちはどこも同じだと思う。

委員長：次に上矢作お願いします。

委員：親の間では統合ありきの感触が強い。今更という感じで盛り上がり上がっていないのが

現状である。

①学習環境では、教育委員会の説明を聞く限り反論する理由はないし意見もない。

②地域説明会で質問として出ていたが地域活動はどうなるか。授業の一貫でやるのは無理がある。地域の努力でしか解決しないのではないかという話があった。

ほかには、通学問題が大きく、出発地点を決めてそこへ集まるものが拠点方式とすれば、親の負担が大きく不満が生じる。通学時間が長くなるほど家庭学習の時間が短くなる。親にとっても子どもにとっても難題である。

③通学時間を短縮するためには、できるだけ細かく送迎してほしい。そうすれば学校に近い子どもと条件が揃うのではないか。交通機関も自由に使えるような手段を考えてほしい。今はまだ場所が決まっていないので断定はできないがそういう懸念があるので、今後課題としてほしい。

委員長：次に明智お願いします。

委員：①仮に通学時間が5分の少人数の学校に通わせるより、30分かけたとしても大勢の学校に子どもを通わせたい。生徒の大小に関わらず子どものやる気を起こすような環境をつくってほしい。合併前のそれぞれの町の考えを改めるべきで、恵南地域は、市民として1つだという気持ちで考えるべきである。

②明智では、未だに市町村合併は失敗だと言っている人がいる。後に戻ることは出来ないので、学校統合をするのであれば、頻度を重ねて、しっかり市民に説明してほしい。

③場所の問題については、人口の多いところ、地元に近いところがよいという意見があった。

委員長：次に岩村お願いします。

委員：統合が望ましい訳ではないがやむを得ない。

①複数学級が維持できる規模が適切である。もし1校に統合するのであれば通学時間は、30分から1時間以内の距離が限界。生徒数は、切磋琢磨できる人数が確保できなければ望ましい教育環境ではないのかという意見がでた。

②年々子どもの人数が減ってきており、望ましい教育環境の複数学級が維持することが難しいこれが今後の課題である。

③1校への統合を考えるべきではないか。もし1校にした場合の課題は、学校の立地、通学方法の検討が必要でないかという意見がでた。

委員長：それぞれ地区から意見が発表されたが、それについてご意見をお願いします。

事務局から発表等で気づいた点があつたらお願いします。

事務局：今まで地区ごとのワーキングを行ってきたが、他地区の人との意見交流がないの

で心配をしているという意見があったので、次回は他地区の人との意見交流を考えているがどうか。

委員長：事務局から提案があったがいかがか。

委員：小中学校の代表として出席しているが、学校側からすると望ましい教育環境は複数学級で切磋琢磨して、専門の先生に習う事は最高だと思う。そのための弊害、通学時間が長くなる等の問題を解決する方法を考えていく。これを両天秤にかけ、長く時間を費やすと論点が変わってしまうことがある。例えば地域性が無くなる、地域特性をつなげていけるのかという意見が出ていたが、柔軟に考えれば解決できると思う。学校は授業をきっちりやりますが、その他の活動、地域活動等を柔軟に考える余地はあると思う。事務局から地区ごとの交流といわれたが、学校側の思いや解決方法もあると思うので学校代表の方へ聞いてほしい。

委員長：先生からも提案があったので次回は、地区を混ぜたワーキングにしたいのでお願いします。

今後のスケジュールとして、1月、2月も委員会を開催しながら提言書をまとめていきたいと思う。次回は事務局に提言書の文案を提案していただき、3月までに委員会としてまとめたいのでよろしくお願いします。

教育長：熱心にご検討していただきありがとうございます。本年度末までに委員会で検討していただいたところまでで提言していただき、今までの各地区のご意見を聞いていると、統合の方向で考えていかないと致し方ないという雰囲気は感じた。今後の検討で学校統合という事になれば、今年度はあり方検討委員会であったが、次は学校再編検討委員会に代わり新たにメンバーを出していただいて検討していく。こういうことの積み上げではないかと私は思っている。各地域の説明会への参加者が少ないのでできるだけ多くの皆さんに知ってもらうことが大事だと思う。要望があれば説明に伺いますので事務局へ連絡をお願いします。

4. その他

事務局：次回、第7回の開催日を確認。

1月21日（水）午後7時30分 岩村振興事務所大会議室において開催。

副委員長：この会は来年3月までであるので、何の回答もなければ意味のない会になるので心して検討してほしい。よろしくお願いします。本日の会議は終了します。